

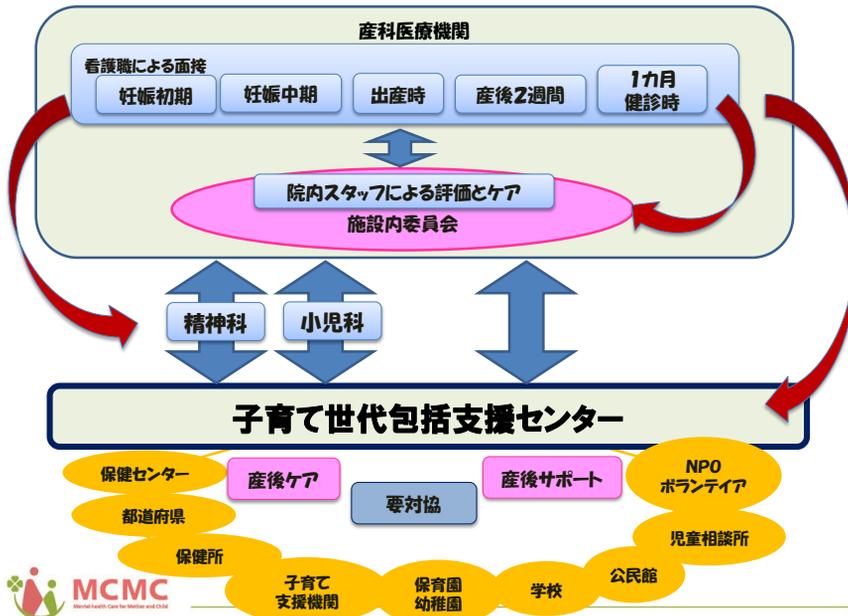
記者懇談会  
2019.5.8.  
(於:記者クラブ)

## 産科医療機関における 妊産婦メンタルヘルスケア普及活動

日本産婦人科医会  
母子保健担当  
相良洋子



### 周産期メンタルヘルスプロジェクトの目指すもの



## 教育プログラム

コース	入門編	基礎編	応用編
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊産婦の心理的变化を理解する</li> <li>・質問票を使ったメンタルヘルスのスクリーニングができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周産期の精神障害を理解する</li> <li>・支援が必要な妊産婦に対して「傾聴と共感」を実践することができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種連携の必要性を判断し、実際に連携のマネジメントができる</li> <li>・連携に必要な社会資源についての知識を身につける</li> </ul>
内容	<p>プレコンgress: 母子の愛着形成について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周産期メンタルヘルスの重要性</li> <li>2. 周産期メンタルヘルスの基礎知識               <ul style="list-style-type: none"> <li>①母子の関係性と妊産婦への基本</li> <li>②妊産婦のメンタルヘルスの不調と対応</li> </ul> </li> <li>3. 支援が必要な妊産婦のスクリーニング (3つの質問票の使い方)</li> <li>4. 質問票を使った面接のロールプレイ (心理士によるデモ)</li> <li>5. 事例検討(グループワーク)</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周産期精神障害についての実践的知識               <ul style="list-style-type: none"> <li>①周産期の精神障害</li> <li>②薬物療法の考え方</li> </ul> </li> <li>2. 支援が必要な妊産婦への対応               <ul style="list-style-type: none"> <li>①傾聴と共感の技法</li> <li>②傾聴と共感のロールプレイ</li> </ul> </li> <li>3. 事例検討の方法</li> <li>4. 事例検討(グループワーク)</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 連携のためのプログラム～連携の実際と社会資源の活用～</li> <li>2. 事例検討の実際</li> <li>3. 研修会の開催方法</li> </ol>
研修方法	研修会(入門編)	研修会(基礎編)	指導者講習会



## 3つの質問票

### I. 育児支援チェックリスト

精神科既往歴、ライフイベント、住居や育児サポート、夫や実母との関係など育児環境要因を把握するための9項目の質問票。育児を困難にする背景要因を総合的に評価できる。

### II. エジンバラ産後うつ病質問票(EPDS)

産後うつ病をスクリーニングするため英国のCoxらが開発、現在では世界中で妊娠中から使用されている。日本人の(産後の)カットオフ値は9点。1点以上の項目について具体的に妊産婦の気持ちを聴くことで精神的支援に導入できる。

### III. 赤ちゃんへの気持ち質問票

母親が赤ちゃんに抱く気持ち(愛着)について調査する簡便な質問票。1歳未満の児を持つ母親に実施する。点数が高いほど赤ちゃんへの否定的な感情が強いことを示している。



## 傾聴と共感

### 傾 聴:

相手を知り、援助したいという目的意識をもって、無条件に相手の話に耳を傾ける。問題を抱えたひとりの人間として尊重する(受けとめる)。

### 共 感 (共感的理解):

相手の気持ちをわかろうと願う気持ち。  
共感すること自体に心理支援の働きがある。



## 研修会・指導者講習会開催日程

年	月 日	研修会	指導者講習会
2017	12.10.	入門編:第1回(東京)	
2018	4.28.		第1回(東京)
	4.29.	入門編:第2回(東京)	
	7.1.	入門編:第3回(大分)	
	10.8.		第2回(大阪)
2019	2.16.	基礎編:第1回(福岡)	
	2.17.		第3回(福岡)
	4.27.	入門編:第4回(東京)	
	4.28.	基礎編:第2回(東京)	
	6.2.	基礎編:第3回(岡山)	
	11.2.	基礎編:第4回(大阪)	
	11.3.		第4回(大阪)



## 研修会

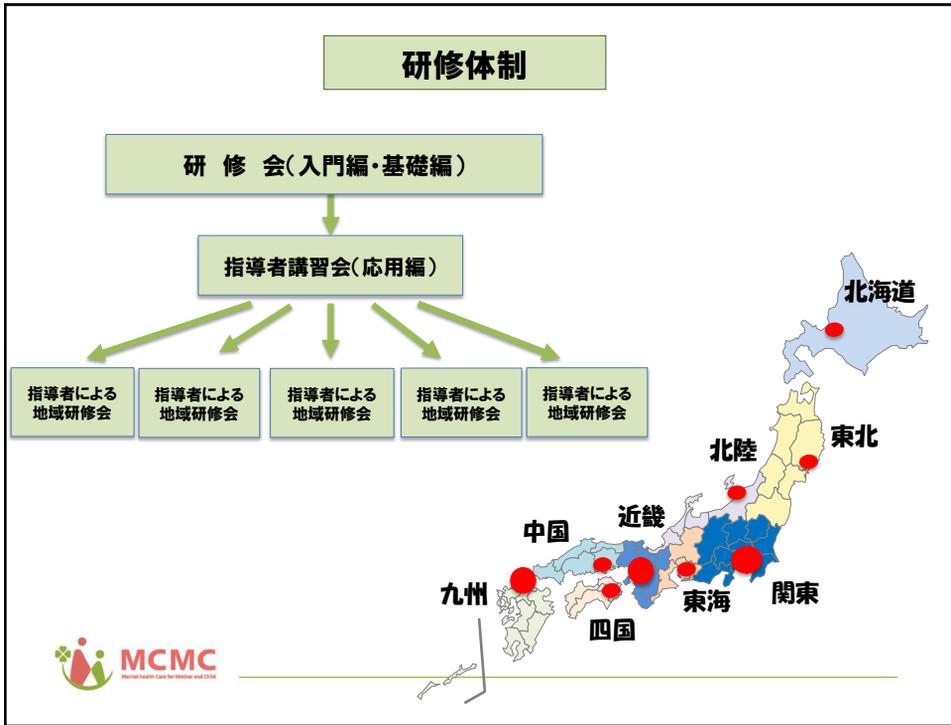
	開催時期	コース	参加者	満足度
第1回	2017.12.10. (東京)	入門編	295名 (助産師206、看護師23、医師48、その他18)	99% (n=248)
第2回	2018.4.29. (東京)	入門編	175名 (助産師121、看護師5、医師42、その他7)	100% (n=143)
第3回	2018.7.1. (大分)	入門編	117名 (助産師75、看護師10、医師11、その他21)	100% (n=101)
第4回	2019.2.16. (福岡)	基礎編	44名 (助産師32、看護師5、医師6、その他1)	100% (n=42)
第5回	2019.4.27. (東京)	入門編	55名 (助産師34、看護師1、医師11、その他9)	100% (n=55)
第6回	2019.4.28. (東京)	基礎編	53名 (助産師38、保健師2、医師9、その他4)	100% (n=53)



## 指導者講習会

	開催時期	参加者	満足度
第1回	2018.4.28. (東京)	100名 (助産師62、看護師6、医師27、その他5)	100% (n=82)
第2回	2018.10.8. (大阪)	46名 (助産師38、看護師1、その他7)	100% (n=46)
第3回	2019.2.17. (福岡)	33名 (助産師25、看護師1、医師6、その他1)	100% (n=32)





## MCMC認定研修会(入門編)研修会の基本構成

### e-learning(自宅での事前学習)

受講時間	タイトル	講師
13分	母子の愛着形成について	星 真一
25分	周産期メンタルヘルスの重要性と医会の取り組み	相良洋子
15分	母子の関係性と妊産婦の対応の基本	清野仁美
12分	妊産婦のメンタルヘルスの不調と対応	竹内 崇
23分	支援が必要な妊産婦のスクリーニング	鈴宮寛子

### 研修会(所要時間3~4時間)

講習時間	内容	講師
○分(オプション)	トピックス(講演など)	外部講師など
60分(講習)	質問票の使い方(ロールプレイ)	※必修 スーパーバイザー
90分	事例検討(グループワーク)	※必修 スーパーバイザー
○分	地域連携のためのプログラム	地域行政など
10分	総括	※必修 スーパーバイザー



MCMCwebサイト : <https://mcmc.jaog.or.jp/>



HOME マイページ お問い合わせ

研修会を開催ご希望の方



母と子のメンタルヘルスケア  
研修会



母と子のメンタルヘルス  
フォーラム



関連トピックス



書籍販売



## 周産期メンタルヘルスに関わる専門職の役割

ハイリスク  
アプローチ

### 精神科医

- 現実検討や意思疎通が困難
- 切迫した自殺念慮
- 薬物や行動制限が必要な重症例

### 公認心理士・臨床心理士、 周産期メンタルヘルス専門の 助産師・保健師

- 軽度・中等度の不安、うつ障害
- 妊娠出産に特有な複雑な心理状態
- 心理専門技能による対応が必要な例

ポピュレーション  
アプローチ

### 保健・医療・福祉に従事する すべての専門職

- どんな人にも生じるこころの問題
- 保健医療専門職としての良識
- 常識的な接遇マナー



(鈴宮寛子・吉田敬子)

## 産婦健康診査事業(H29.4.)

### ○事業目的

産後うつ予防や新生児への虐待予防等を図るため、産後2週間、産後1か月など出産後間もない時期の産婦に対する健康診査(以下「産婦健康診査」)に係る費用を助成することにより、産後の初期段階における母子に対する支援を強化し、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援体制を整備する。

### ○実施主体

本事業の実施主体は、市町村(特別区を含む)とする。  
なお、本事業の実施に当たっては、①～③の要件を満たすこと。

- ①産婦健康診査において、母体の身体機能の回復、授乳状況及び精神状態の把握等を行うこと。
- ②産婦健康診査の結果が健診実施機関から市町村に速やかに報告されるよう体制を整備すること。
- ③産婦健康診査の結果、支援が必要と認められる産婦に対して、産後ケア事業を実施すること。

### ○費用の請求

医療機関等が、本事業における産婦健康診査を行った場合のこれに要した費用の請求は、産婦健康診査1回あたり5千円を上限として、市町村長に行うものとする。



## ハイリスク妊産婦連携指導料

### ●基本的な考え方:

精神疾患を合併した妊産婦(ハイリスク妊産婦)に対して、産科、精神科および自治体の多職種が連携して患者の外来診療を行う場合の評価を新設する。

### ●具体的な内容:

精神疾患の妊産婦に対して、産科または産婦人科の外来における指導に係る評価を新設する - ハイリスク妊産婦連携指導料1(月1回)1000点

精神疾患の妊産婦に対して、精神科又は心療内科の外来における指導に係る評価を新設する - ハイリスク妊産婦連携指導料2(月1回)750点



